

放課後のサポート

働く人の味方

児童クラブ

児童クラブとは、放課後帰宅しても保護者が働いている家庭の小学校一〜三年生を、児童会館が預かる取り組みです。子どもたちは職員の指導



児童会館で遊ぶ子どもたち



児童会館図書室で親子に取材

のもと、ドッジボールや一輪車、野球、読書、トランプなどを楽しんでいきます。

厚別東児童会館館長の佐藤治さんは「利用している子どもは、小学校一〜三年生の九十六人です」と話していました。開設時間は学校が終わってから午後六時までです。

児童クラブを利用している親子に話を聞きました。共働きの吉井富美子さんは「娘が通っていた保育園から紹介されました」と話し、「最近では、子どもを狙った事件が多く



佐藤館長(右)と職員の方々

なってきたので、児童クラブが子どもを預かってくれると安心感があります」と語りました。娘の響野ちゃんも「外遊びをしたり友達とお絵描きをして遊んでいます」と楽しそうでした。

児童育成会

児童育成会ネバーランドとは、仕事などの理由で昼間保護者がいない家庭の小学生を、放課後や長期休業中に預かる民間施設方式児童育成会の一つです。

四年前の四月に、大谷地に「ネバーランド」が発足しました。ネバーランド主催のバザー会場におじゃまして、指導員の高野みゆきさんと山口友紀さんに話を聞きました。ネバーランドでは学校が終



行事も保護者が運営の中心に

わってから午後五時半まで預かっていきます。二人は「子どもたちの発想を大切に、のびのび遊ばせていきます。近くの公園を使つての外遊びを多く行っています。けん玉やお手玉などの伝承遊びも行います。年齢の異なる集団の中で子どもたちは大きく成長しています」と話していました。バザーは年二回開かれ、地域とのつながりの強化や、ネ



バザーでは子どもたちも売子に



山口さん(左)と高野さん

バーランドの子どものための行事を充実させるための活動資金集めなどを目的にしているとのこと。

記者席

両親学級に取材する前、夫のほうは積極的ではないだろうと思っ
ていました。しかし、夫も赤ちゃ
んのお風呂入れの実習に積極的に
参加しているなど、生の声を取
材して夫の意識の高さに驚きました。

また、ネバーランドを取材して、保護者

が子どもを預けきりにして
いるのではなく、運営組織も
保護者が作っているなど、主
体的に参加していることが分
かりました。児童クラブと
児童育成会で、私たちはた
くさんの子どもに出会いま
した。その笑顔と生き生き活
動している姿が、とても印象
に残りました。